

松本市議会ステップアップ市民会議 提言書 素々案
～若者の政治（市政・地方自治）への関心を高めるために～

1 はじめに

人口減少社会に直面する現在の日本において、若者の政治参加は不可欠である一方、近年、国政選挙、地方選挙を問わず、若者を中心に投票率が低下しています。平成28年7月に執行された参議院議員選挙から、選挙権年齢が「20歳以上」から「18歳以上」に引き下げられ、選挙を通じて、より多くの若者が政治に参加する機会を得た今こそ、地方自治の一端を担う松本市議会も、若者の政治への関心を高める取組みを積極的に進めていくべきであると考えます。

そこで、私たち、松本市議会ステップアップ市民会議の委員は、平成28年1月に委嘱されて以降、「若者の政治（市政・地方自治）への関心を高めるために」をテーマに、一市民の立場から意見交換を重ね、この課題に対して、「松本市議会にはどのようなことができるのか」を検討し、その結果を提言としてまとめました。

2 現状と背景

まずは、若者の政治への関心が低い背景について考察し、取組みの方向性を整理しました。

（1）若者の現状

ア 一般的に「政治への関心が低い」と言われている若者の中にも、政治に関心のある層はおり、一括りにすることはできない。また、平成23年の東日本大震災以降、自分の故郷に関心を持つ若者や社会に貢献したいと考える若者は増えてきている。

イ 一方で、政治や社会に対して関心は持っていても、そのことが選挙での投票をはじめとする具体的な行動（政治参加）に結びついていない。

（2）政治への関心が低い理由として考えられるもの

ア 自分達の意見がどのように政治に反映されていくのか、イメージがつかめていない。

イ 政治や政治家（議員）との距離を遠く感じているほか、自分達の意見が政治に届かないという無力感がある。

ウ 学校の授業で学んだことだけでは、社会に出てから、例えば「選挙で誰を選べばよいのか」など、自分の立場を決めることは難しい。

エ 家庭内や学校をはじめ世間において、政治的な話題を避ける雰囲気がある。

(3) 取組みの方向性

政治への関心が低い理由について考察するなかで、**これまでの政治や議員へのアプローチに「若者にも理解できる」という視点が足りなかったことが背景にあるのではないかとの結論に至りました。**

そこで、以下の2つの方向からのアプローチすることが、この課題の改善につながるものと考え、具体的な取組みを検討していくことにしました。

ア 政治や議員との距離を縮める取組み

イ 政治に対する関心のすそ野を広げる取組み

3 提言

これまでの会議のなかで、各委員から出された意見、及び上記で整理された方向性を踏まえ、「松本市議会にできる取組み」を次のように提言します。

【提言1】

若者と市議会議員との距離を縮めるような“場”の創出（プラットフォームづくり）

(1) 提言内容

若者の政治への関心が低い理由として、「議員との距離が遠く、議員の活動が見えないから」という点が挙げられていることから、議員との距離を縮める取組みが必要です。また、議会側が若者の意見を取り上げようという姿勢を示し、強くメッセージとして発信することも大変重要です。

そこで、松本市議会議員とステップアップ市民会議の委員が一緒になって、身近なテーマについて、若者と気軽に話し合える場を設けること（交流のプラットフォーム化）を提案します。

議員側が参加者を募るのではなく、ステップアップ市民会議の委員と議会事務局が若者との間を仲介することで公平性を担保し、また、議員は毎回ローテーションで交代し、定期的な意見交換の場として発展させていくことも考えられます。

(2) 効果

若者には議員と関わるチャンネルが少なく、また、議員側も知り合い以外の若者と関わりを持つ機会が限られていることから、両者の距離感を縮め、つながりをつくる有効なツールとなります。また、若者の意見に議員が応答し、それが目に見える形で反映されることになれば、若者に政治に参加しているという実感を持ってもらうことが期待できます。

【提言2】

若者（子ども）向け 議会だより の発行

(1) 提言内容

松本市議会が、平成27年度から取組みを始めた「高校生との交流事業」は、議員自らが学校の授業に参加し、市議会の仕組みや議員の仕事を紹介することで、市政や地方自治に関心を持ってもらう取組みであり、議会からの情報発信の一つとして有効な手段であると言えます。今後も生徒会をはじめ学校というシステムを活用し、さらには義務教育段階（小・中学生）まで対象を広げ、多くの若者（子ども）に議会から情報発信をしていくことが重要です。

その一つの手段として、小・中学生、高校生向けのわかりやすい「市議会だより」の発行を提案します。若者（子ども）にとって身近な話題について、テーマを絞り、写真や漫画を入れるなどし、多くの若者（子ども）の目にとまるよう工夫します。

(2) 効果

市議会がどのような活動をしているのか、を小・中学生の段階から知ってもらうことは、政治に関心を持ってもらうきっかけになります。また、小・中学生を通じて保護者への波及効果も期待できます。